

い二十億七千五百万円に過ぎません。一方才出面では、その主要な部分を占めるものは人件費です。昨年度は人員整理などにより、人件費削減のため相当の努力を続けましたが依然として増大の一途をたどり、予算全体の構成比から見ると、下のグラフでわかるように前年度の四九・七％から本年度は五〇・七％に増加しています。

本県財政の課題は、如何にしてこの増大する人件費を縮小し、公共事業など投資的な経費の増大をはかるかということにあるのです。

このような財政事情ですから、三十五年度は物件費など節約できるものは極力



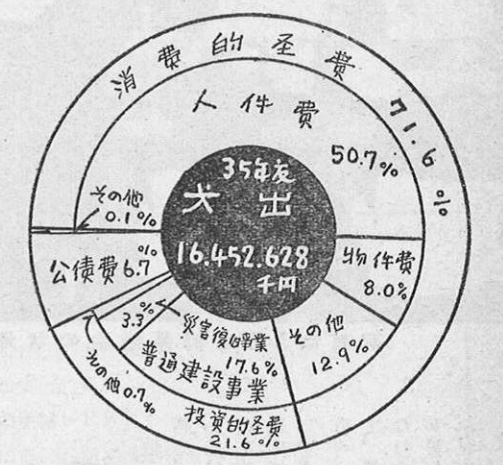
桜井三郎氏の死を悼む

熊本県知事 寺本 広作
前本県知事 桜井三郎氏（現参議院議員）は、さる四月八日の夜、東京都の自宅において、急患のため逝去されました。まことに哀悼に堪えません。

きりつめ、又重点的・効率的な予算執行が更に一段と要請され、次の四点を基本として予算が縮成されたのです。

四つの基本方針

- 一 産業振興の基礎条件を整備するため、公共事業の増大をはかる。



35年度と34年度の当初予算 性質別比較



(4)

周知のとおり、同氏は、大正十五年京都帝国大学法学部法律科を卒業され、直ちに官界に入り、昭和二十一年七月当時の官選知事として就任以来三回の知事選挙に当選され、前後十有余年の長期に亘り、県政の中枢となつて、戦後の困難な県政の再建樹立について献身的な努力を重ねられ、その重責を果し、三十四年二月退任、同年六月には参議院議員に当選され引き続き側面から県政発展に尽力せられ、今後なおその御協力にまつところ大なるものがあります。ことにこの悲報に接しましたことは、まことに痛恨の極みであります。ここに県民の皆さんと共に同氏の偉大な御功勞に感謝し、謹んで御冥福を祈るものであります。

本県を一日も早く全国水準に到達させるためには、産業振興の基礎である各種施設の整備を促進することが緊要であり、特に道路、橋梁の整備及び土地改良事業の推進に重点をおいて、普通建設事業全体としては昨年度の当初予算額は二十八億一千六百万円であつたものを、本年度は二十九億九千万円に増額して基礎条件の整備促進を図ることにしています。

二 第十五回国民体育大会の円滑な推進をはかる。

天皇、皇后両陛下をはじめ各宮殿下の御親臨の下に第十五回国民体育大会を開催する運びとなりましたが、本県にとつては多年の要望であり、且つ県史の一ページを飾る偉業でありますので、県民の皆様方の絶大なる御支援の下に有終の美をもつて終了するよう、野球場等の諸施設費をはじめ事務局の諸費用も含めて一億二千万円を計上して、国体開催準備体制の整備を図ることにしました。

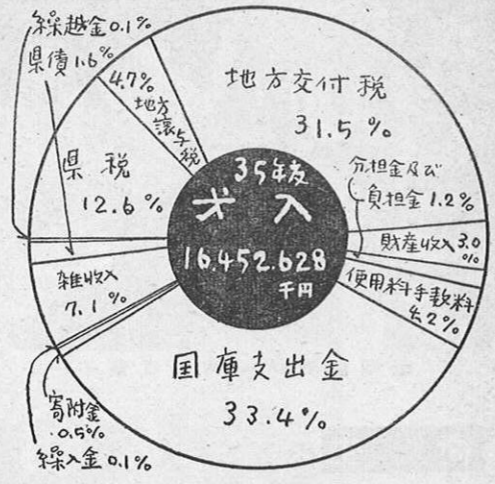
三 単年度で完了し経済効果のあがる事業を促進する。

昭和三十一年から四年間、財政再建回

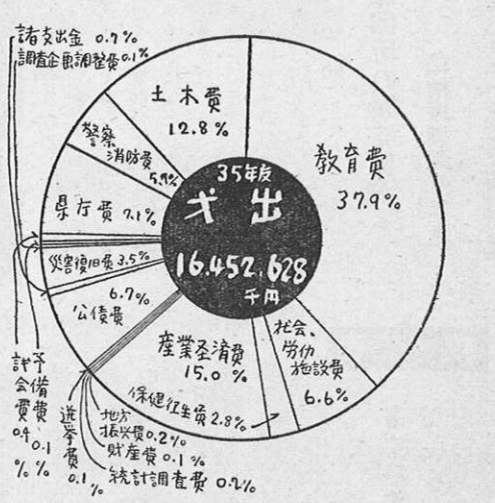
体のために、必要な事業も繰延べてきた関係もあり、又本年度は財政再建団体として国の援助を受ける最後の年であるので、単年度で経済効果のあがる事業は必要に応じてこれを取上げ促進することにしました。

四 明年度以降からの財政の自立に備えて、県財政の健全性を堅持していくよう慎重に配慮をいたしました。

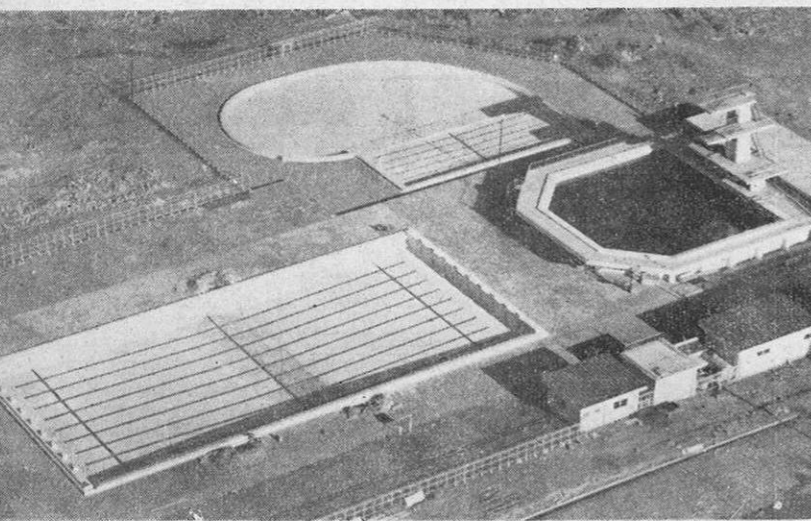
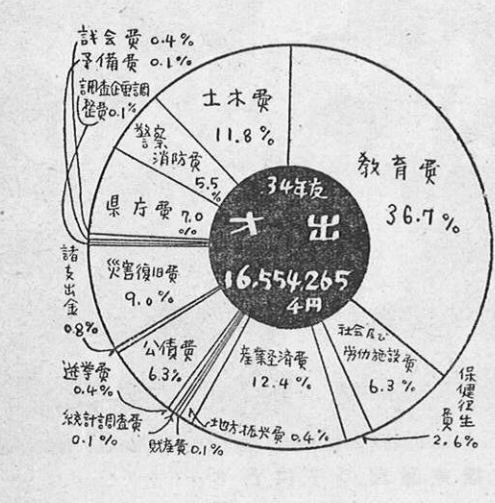
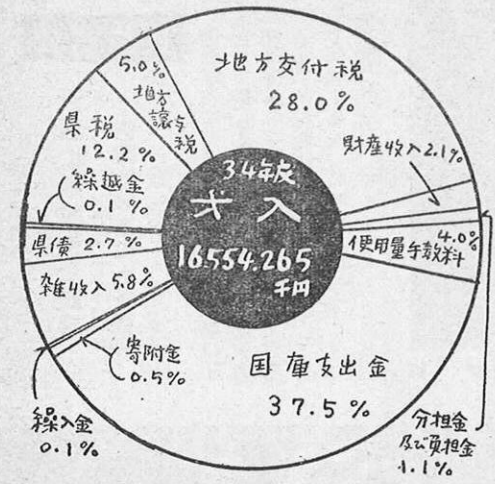
このような基本的な考え方をもちつて編成した予算の内容を、三十四年度の当初予算とグラフによつて比較してみると右のグラフ及び次頁のグラフのとおりです。この二年度を比較して目立つのは、才出面では国庫支出金が減少し、才出面では災害復旧費が減少したこと、才出面では、年々災害復旧になやまされていきましたが、三十一年までに受けた災害の復旧事業が三十四年度で全部完了したので、昨年度当初予算で計上した災害復旧費十五億二千三百万円が、本年度当初予算では五億五千万円に激減したものであり、災害復旧費が減少したことは、産業振興の上からまことに幸いなことで



35年度と34年度の当初予算 才入比較



35年度と34年度の当初予算 別款別比較



空から見た県営プール……左が50米競泳公認プール、右が飛込公認プール 前方は徒渉プール

国体

次に、本年度予算に計画している事業では新しい事業もいろいろありますが、特に変わった主なものについて述べてみましょう。

県営プールを更に整備

昨年から発足した県営プールは、目下国体に備えてスタンド整備に着手しているが、昨年の体験にかんがみ、新たにパーゴラ（日覆）施設、女子更衣室の整備などいろいろと内容を充実させて、一般の方々の利便を図ることにしています。